

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：社会人類学調査法 ILAS Seminar :Social Anthropological Research		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,Iwatani Ayako	
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks 1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester		Quota (Freshman) 10 (10)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods Thu.2
Classroom	3B, Yoshida-South Campus Academic Center Bldg. North Wing			Language of instruction	Japanese
Keyword	ジェンダー / 人類学 / フェミニズム / グローバル化 / オリエンタリズム				

(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

ジェンダーの視点は、現在、世界で生じている大きな社会変動を読み解くうえで、必要不可欠なものになりつつある。しかし、ジェンダーの多様性をふまえた社会構築に対する反動が世界各地で起きており、新たな社会秩序は模索されている途上である。
また日本社会におけるジェンダーをめぐる議論は、まだまだ世界の潮流に追いついていない現状がある。本講義では、多様な人間社会をジェンダーの視点から考察するうえで必要となる視座を、文化人類学の関連文献の講読と討議を通して把握することを目指す。

[Course objectives]

- ・フェミニズムの視点が、女性に特化した研究に閉じられたものではなく、人間を根底から考察し、異なる存在が共生するうえで必要不可欠な視点であることを理解する。
- ・日常生活のなかで、自明とされているジェンダー観を問い直すことができるようになる。
- ・現代のジェンダーをめぐる諸議論を把握できるようになる。
- ・ジェンダーの視点を文化人類学に取り入れることの意義と課題について把握する。

[Course schedule and contents]

授業では『ジェンダー人類学を読む』（宇田川妙子・中谷文美編）を講読するが、受講生は担当する章と、そこに提示されている参考文献のうち、一つを取り上げてレビューを行い、授業でディスカッションを行う。授業と講読を通じて、ジェンダーやセクシュアリティをふまえた人類学的な研究の動向と視座を明らかにする。

- 第1回 講義と講師の紹介
- 第2回 ジェンダー人類学の現在
- 第3回 国家が規定するジェンダー役割とローカルな実践 インドネシア
- 第4回 他者化するまなざしの交錯の中で タイ
- 第5回 女性・身体・暴力 インド
- 第6回 世俗主義・イスラーム・女性 トルコ
- 第7回 地域の「門番」概念としてのジェンダー・セクシュアリティー地中海ヨーロッパ
- 第8回 アフリカ地域研究における生業とジェンダー中南部アフリカを中心に
- 第9回 親族組織に埋め込まれたジェンダーーポリネシア・サモア

Continue to ILASセミナー：社会人類学調査法(2)

ILASセミナー：社会人類学調査法(2)

- 第10回 ジェンダー視点と社会問題の交錯 オーストラリア・アボリジニ
第11回 「開発とジェンダー」をめぐる政策と実践 スリランカ農村女性の事例から
第12回 国際移動とジェンダー フィリピンの事例から
第13回 グローバル化する世界における女子割礼／女性性器切除 交渉されるジェンダーとセクシュアリティ
第14回 ポストコロニアリズム・フェミニズム・宗教
第15回 フィードバック

[Course requirements]

他の人類学に関する講義を同時に受講していることが望ましい。

[Evaluation methods and policy]

授業への出席が前提となる。講義内での受講生の報告（60％）、ディスカッションへの参加状況（40％）で評価する。

[Textbooks]

宇田川妙子・中谷文美（編）『ジェンダー人類学を読む』（世界思想社、2007年）

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

- ・講読担当者以外も、受講生は講読箇所をあらかじめ読んで授業に臨むこと。
- ・講読担当者は、文献に登場する概念や用語の背景も調べたうえで講読担当章の内容を要約し、自分の意見もまとめて発表すること。
- ・受講生は授業で提起された問いを、関連文献の講読によって深めることが期待される。

[Other information (office hours, etc.)]

- ・総合人間学部の学生は、別途選抜を行うので、総合人間学部便覧のシラバスを確認のうえ第1回目の授業に出席すること。
- ・授業中、疑問点などは積極的に質問すること。